

事業実施報告

開催日	令和6年10月12日（土）～13日（日）		
事業名	テンパーク冒険子ども食堂		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家 岩手大学滝沢農場	参加人数	24人
対象	連携機関から推薦された子ども食堂を利用している小学校4～中学生		
関係機関名	認定特定非営利活動法人インクルいわて、特定非営利活動法人いなほ、矢巾町社会福祉協議会（ここかむ食堂）、もりもりおちゃわん盛岡、森の葉風工房葉っぱのうち		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、晴天に恵まれ計画通り1日目はネイチャーゲーム、テント設営、創作活動（マイフォーク）、野外炊事（ナポリタン）、キャンプファイヤー、お話し（講師によるストーリーテリング）、テント泊を行った。2日目は、農場での野菜と果物の収穫、収穫した物を使った野外炊事、振り返りを実施した。

〔成果〕

- ・5つの子ども食堂の協力をいただき、定員を超える28名の応募があり、最終24名の参加を得た。
- ・野外の共同体験を段階的に実施することで、「友達と一緒にやるのが楽しい」「もっと距離を縮めたい」などの意見が多く聞かれ、仲間と協力して活動する楽しさや達成感を味わうことができた。
- ・小4～中3までの異年齢の班にボランティアを固定して活動をした。中学生やボランティアは傾聴姿勢をとり、班の雰囲気や安心感のあるものになった。「〇〇さんのようになりたい」「次はボランティアとして参加したい」という感想もよせられ、今後の人間関係を形成する上でも大きな経験になったと考えられる。
- ・食への興味関心を高めるために、身近で簡単なメニューを美味しく食べられる工夫をした。どの食事でも全参加者からは大好評であった。事後の振り返りでも「〇〇がおいしかったから、家でも作りたい」等の感想が多く、食への関心の高まりが伺えた。
- ・最後の野外炊事は、かまどではなくカセットコンロを使用し、誰でも知っている身近なメニューで、調理を行った。また、自分達で収穫したキャベツを「焼く・煮る・生食」と調理法を変えて食した。こうした工夫で、キャベツのおいしさに気がつき、1人でも作れるという自信がもてた様子だった。保護者からの事後のアンケートでも反応が大きく、生活能力が向上したと考えられる。

〔課題〕

- ・バス代の高騰で、事業費の多くがバス代の支出となった。そのため、遠方の外出は厳しく、今後も活動の拠点は岩手山青少年交流の家となる。
- ・発達障害など配慮が必要な児童生徒が参加者に多く、次回も連携スタッフやボランティアの協力は必須と考える。今回は大きなトラブルはなかったが、今後も指導体制を相談したり、活動内容を精選し、スタッフで共通理解を図りながら進めていきたい。
- ・10月中旬の屋外テント泊は毛布等を追加し寒さ対策を施しても厳しいものがあつた。来年度この時期に実施する場合は、館内泊を検討したい。

状況写真



「ネイチャーゲーム」



「テント設営」



「夜のお話し会」



「朝のひとこま」



「農場でりんご狩り体験」



「野外炊事」